



自動運転社会の実現に向けた Human Factors 研究最前線 -産総研自動車ヒューマンファクター研究センターの取り組み-

日時：2016年 **3月11日(金) 13:30**～17:45

☆3月10日(木)・11日(金)は、シンポジウム「モバイル'16」が開催されます。

本公開セッションは、このシンポジウム内のプログラムです。

場所：産業技術総合研究所 つくば中央 共用講堂

http://www.aist.go.jp/aist_j/guidemap/tsukuba/center/tsukuba_map_c.html

参加費：公開セッションのみ参加の場合は無料（事前の参加登録は必要ありません）

企画趣旨：自動運転システムの実用化に向けて世界中で研究開発が盛んに行われています。自動運転では、ドライバーが運転操作をするのではなくシステムが自動で車両をコントロールしてくれますが、むしろそうであるが故に「人」を対象とした研究の重要性が増しています。産総研では、産業界からの自動車人間工学研究に対する強いニーズを受け、2015年4月より自動車ヒューマンファクター研究センターが設立されました。本セッションでは、当センターの自動運転 Human Factors の研究事例を中心に、自動運転に関する人間研究の最前線を紹介いたします。

司会：赤松 幹之（首席研究員）

13:30～ 15:00	特別講演 自動運転によるモビリティ社会の将来(仮)	清水 和夫 (自動車ジャーナリスト)
15:00～ 15:20	講演 1 なぜ自動運転で Human Factors 研究が必要か？	北崎 智之（研究センター長）
15:20～ 15:40	講演 2 自動運転の研究開発の歴史	加藤 晋 (知能システム研究部門フィールドロボティクス研究グループ長)
15:40～ 15:55	講演 3 自動運転中のドライバー状態の評価方法	武田 裕司 (認知システム研究チーム長)
休憩: 5分		
16:00～ 16:15	講演 4 自動運転制御と情報提示がドライバーに及ぼす影響	小峰 秀彦 (生理機能研究チーム長)
16:15～ 16:30	講演 5 自動運転システムへの信頼性と制御範囲外でのドライバー反応	岩木 直（副研究センター長）
16:30～ 16:45	講演 6 ドライバーパーソナリティと自動運転の嗜好	佐藤 稔久 (行動モデリング研究チーム長)
16:45～ 17:00	講演 7 トヨタが目指す自動運転 ～Mobility Teammate Concept～	森 大樹（トヨタ自動車 制御システム先行開発部 第2自動 運転技術開発室 グループ長）
休憩: 10分		
17:10～ 17:45	AHFRC レクチャー 自動車ヒューマンファクター研究が目指すべきこと	赤松 幹之（首席研究員）

※シンポジウム「モバイル'16」のプログラムは以下をご参照ください。

http://www.mobilergo.com/symposium/2016/contents/m16_20160203.pdf